

市町村名		宜野座村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1-①		阪神タイガース春季キャンプ受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ						
	担当部課名	観光商工課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備					
事業内容		阪神春季キャンプ受入による観光誘客を図るため、球場仮設ブルベンの設置やグラウンド黒土搬入等を行う。					III-1-(1)					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a) 当初予算額	8,524	9,412	9,783	9,783	9,588	(b) 予算現額	8,524	9,412	9,783	9,588
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	8,524	9,412	9,783	9,783	9,588	B. 執行済額	8,524	9,412	9,611	9,410	
	うち交付金充当額	6,819	7,530	7,688	7,417	7,527	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.2%	94.8%	98.1%	予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については委託費の入札残や人件費の残、消耗品数量の減などによるものである。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
				H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		・野球場防球ネット、エアアーチ、パワーテント、テント等設置	目標	(仮設ブルベン防球ネットエアアーチパワーテント等設置)	(仮設ブルベン防球ネットエアアーチパワーテント等設置)	(防球ネットエアアーチパワーテント等設置)	(防球ネットエアアーチパワーテント等設置)					
			実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了					
・野球場、総合グラウンド黒土搬入		目標	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)						
		実績	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了						
・キャンプ会場の衛生管理	目標	()	()	()	(衛生管理)							
	実績				衛生管理実施							
達成状況説明	・春季キャンプ期間中、選手及び見学者が安全・快適に練習・見学ができるよう、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、パワーテント、テント等を設置したほか、清掃員や警備スタッフ等を配置し、球場内外の整備を行った。 ・阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入替を実施した。 ・選手が安心してキャンプに取り組めるよう、衛生品準備やインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策も実施したほか、キャンプ期間中だけでなく、年間を通し調整を行い、球団との関係を築いた。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)					
	阪神春季キャンプ見学者数(86,000人)	目標	()	(71,000人)	(85,000人)	(86,000人)	()					
		実績			108,900人	100,100人	80,800人					
進捗状況説明	阪神春季キャンプ見学者数の実績は80,800人となり、目標値を達成することができなかった。球団は昨シーズンの終盤の追い上げにより3位に入り、クライマックスシリーズに進出し、キャンプ中も球団のファンサービス、週末には多くの練習試合が実施され話題となった。清掃員や会場スタッフを雇用し、臨時駐車場やシャトルバスを準備し誘客に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大により来場者が伸びなかった。											

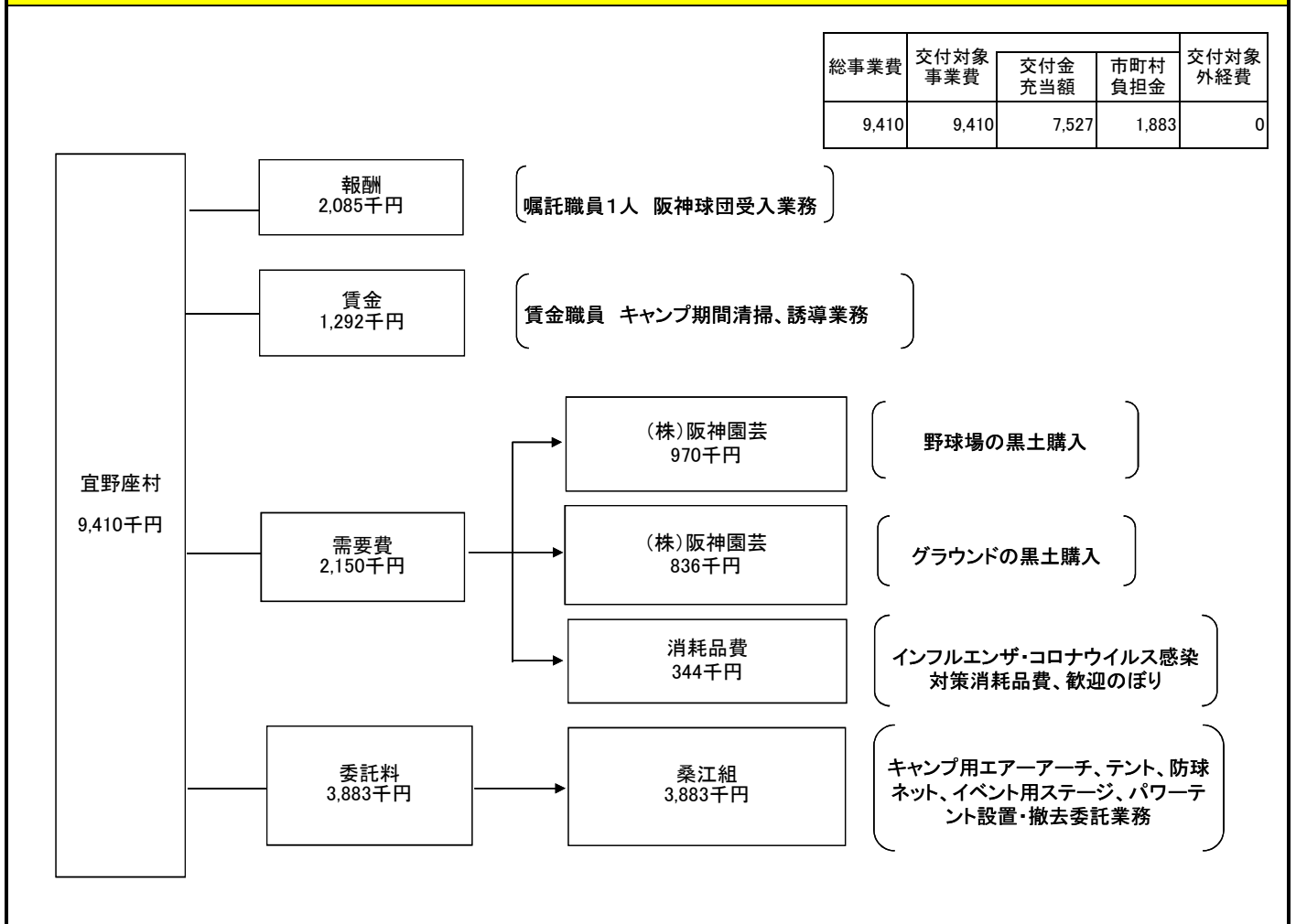
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・今年度は昨シーズンの成績及び週末に練習試合が多く実施されたことにより、多くの来場が期待されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により目標に達しなかった。安心安全にキャンプができるよう、次年度に向けて感染症拡大防止策等を検討していく必要がある。</p> <p>・目標には達しなかったものの、観客動員数は80,800人であり、阪神タイガース春季キャンプは本村でもっとも大きな観光資源となっている。今後もキャンプ地としての利用を継続してもらうため、球場整備や選手・ファンの安全確保、交通事故防止等に取り組む必要がある。</p>	<p>・感染予防について事前に球団と調整し、練習環境の整備やファンサービスの実施方法等について検討する。</p> <p>・引き続き野球場等の黒土入れ替え、選手・ファンの動線管理、球場内外の警備や誘導員の配置、臨時駐車場の設置、シャトルバス運行を実施し、安全・快適なキャンプ場整備に努める。</p>

今後の取り組み方針

・感染予防として手洗いの徹底を呼びかけるほか、トイレや観客席、練習見学場所、手洗い場等に消毒用アルコールを設置する。また、サイン会について実施する場合は、手指の消毒、マスクの着用を呼びかけ、3密対策をとるよう、事前に球団と調整しながら、安心安全にキャンプが実施できるよう対策を検討する。

・今後もキャンプ地として、選手及びファンが安全・快適に利用できるよう受入体制を構築するほか、球団や村観光協会、村商工会と通年で連携を取り、村全体でキャンプ地として盛り上げるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・予算規模については、見積りを徹して積算しており、適正な規模であった。</p> <p>・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保及び、村外からの誘客を図るため、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に芸能文化・伝統芸能公演等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	13,000	18,000	16,000	65,000	30,000
	(b)予算現額	40,007	18,000	16,000	65,000	29,934	
	(c)増減額(b-a)	27,007	0	0	0	▲66	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	40,007	18,000	16,000	65,000	29,934	
	B.執行済額	40,007	18,000	16,000	65,000	29,934	
	うち交付金充当額	31,605	14,400	12,800	52,000	23,947	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	事業費減額については、新型コロナウイルス感染拡大を受け、3月に子ども育成事業の2つのダンス教室を一時休講にしたことによるものである。最終的に改定契約で66千円を減額し精算した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	(がらまんホール公演) 「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催する。(17回以上)	目標	(26回)	(31回)	(30回)	(17回)	
		実績	28回	37回	30回	18回	
	(お出かけ公演) 教育施設、福祉施設、観光施設等で文化事業を行い、文化芸術を通して交流できる芸術普及活動を行う。(11回以上)	目標	(12回)	(6回)	(20回)	(11回)	
実績		13回	23回	20回	17回		
達成状況説明	・がらまんホール公演については、エンツォ・ファバータ クロッシング・カルテット、ロバート・カジメロ トークショー&ソロコンサート、がらまん沖縄芝居公演など、計18回の芸術文化・伝統芸能公演を実施した。 ・お出かけ公演については、小芳家族お出かけコンサート、GINOZAサンセットライブ、ダンスパフォーマンス9Elementsなど、計17回の活動を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	()	(2,500名)	(3,000名)	(2,520名)	()
		実績		5,695名	13,990名	7,119名	
	②お出かけ公演対象者数	目標	()	(600名)	(5,000名)	(5,250名)	()
		実績		4,569名	6,032名	4,624名	
進捗状況説明	①芸術文化・伝統芸能公演については、「沖縄コーヒーフェスティバルin宜野座」写真展と子供向けの展示会「カンナパレード」に想定よりも多くの来場者が訪れたことにより、目標数値を2倍以上上回った。 ②お出かけ公演については、当初GWに昨年と同様の大規模イベントを開催する予定であったが、交通渋滞と施設内の混雑緩和を考慮し、大型連休を避けて実施した。その結果、回数は達成したが集客においては大型連休との相乗効果を得られず、目標値を下回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次年度は次の点に留意して事業を実施する必要がある。 ①芸術文化・伝統芸能公演においてはホール入場者の人数制限を行うほか、代替できる取り組みを検討する。 ②お出かけ公演では一度の実施人数を減らすなどの対策をとる。	①密を避けながら芸術公演に触れる機会を提供できる映像配信を軸とした新規事業の企画を検討する。 ②コロナ禍においても対応できるお出かけ公演を充実させ、様々な施設での開催を検討する。
今後の取り組み方針		
①村民が偏りなく多彩な文化芸術・伝統芸能に触れる機会を確保すること、また、コロナ収束後における村外・県外からの誘客を目的とし、新たに映像配信事業を加えた新年度事業を企画する。 ②新型コロナウイルスの影響により、お出かけ事業をこれまで同様に行うことは困難だが、これまでに培った芸術文化による交流を絶やさめよう工夫して取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,934	29,934	23,947	5,987	0
<pre> graph LR A[宜野座村 29,934千円] --> B[委託料 29,934千円] B --> C[宜野座村文化のまちづくり 事業実行委員会 29,934千円] C --- D([宜野座村文化のまちづくり 魅力 発見事業に係る委託業務]) </pre>				
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明	
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である実行委員会は、村内の各種団体の関係者で構成する委員で、文化センター設立以来、がらんホール事業の企画を行っており、委託先は妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○用途について額の確定時(完了検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	宜野座村着地型観光誘客推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
	担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通したイベントの開催、観光関連人材の育成等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,000	35,000	35,000	49,759	49,650
		(b) 予算現額	25,000	34,741	37,160	48,387	47,834
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 259	2,160	▲ 1,372	▲ 1,816
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	25,000	34,741	37,160	48,387	47,834
	B. 執行済額		25,000	34,741	37,160	48,387	47,834
	うち交付金充当額		20,000	27,793	29,728	38,710	38,267
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予定の職員数を確保できなかった事、関東圏での団体誘致プロモーションの中止、その他諸経費の残により事業費1,816千円を減額した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定していた関東圏での団体誘致プロモーションを中止したが、その他の事業内容は計画通り実施し、適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	観光誘客プロモーション活動の実施 (関西地域、沖縄県内、団体誘致等)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	・観光プログラムの開発事業の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	・観光人材育成事業の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	年間を通したイベントの開催(3回)(村内)	目標	(3回)	(3回)	(3回)	(3回)	
		実績	3回	3回	3回	3回	
外部専門家(アドバイザー)招請によるSNSなどの活用による情報発信の検証と、発信技術の向上を図る。	目標	()	()	(外部専門家事業)	(外部専門家事業)		
	実績			情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光誘客プロモーション活動については、宜野座村観光拠点施設の完成により、道の駅「ぎのぞ」を観光発信の拠点となったことから、ノベルティの作成や各種媒体を活用した情報発信を実施した。関西地域においては甲子園球場での村PR、沖縄県内においては県内アウトレットモールで村内の物産・スイーツの販売と合わせて観光PRを展開した。また、修学旅行誘致、スポーツツーリズム誘致に取り組んだ。 観光プログラムの開発事業については、周遊サイクルモニター事業に関する周知PR、各種パンフレット作成を実施した。 観光人材育成事業については、村民を対象として、ラジオを通した沖縄の情報発信及び道の駅支援機構理事を迎えての各種施設・飲食店の仕掛けづくりなどについて講演会を実施した。 年間を通したイベントの開催については、道の駅ぎのぞフェスティバル、リバーサイドフェスタGINOZA、阪神タイガースキャンプ花事業を実施した。 外部専門家事業については、SNS等を活用した情報発信に向けた情報収集(アンケート)の内容、PR時の手法等について助言を受け、情報発信力の強化を実施した。 						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
	宜野座村の観光入客数(24.5万人)	目標	()	(21万人)	(24万人)	(24.5万人)	()
		実績			22万人	27万人	24万人
進捗状況説明	令和元年度の宜野座村の観光入客数は24万人となり、目標を達成することができなかった。 達成できなかった要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出自粛などが考えらる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・入域客の状況として、これまでプロ野球春季キャンプシーズンに観光客が集中する傾向がみられたが、道の駅ぎのぎのリニューアルをきっかけに、年間を通して県外・国外からの訪問がみられるようになった。 ・道の駅ぎのぎを訪れる観光客の村内観光資源への誘導について、周遊サイクルモニターを活用して引き続き検討していく必要がある。 ・国外からの訪問者の増により、インバウンド対応の受入を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで関西を中心に展開してきたPR活動・誘致活動の対象地域を拡大し、プロ野球春季キャンプシーズンだけでなく通年をとした観光誘客に取り組む。 ・周遊サイクルモニターを実施し、自転車により村内周遊データを取得しながら村内観光施設との連携に取り組む。 ・インバウンド向け情報媒体や案内放送の強化と発信力の強化を図る。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・観光誘客プロモーションのPR活動範囲を拡大し、関東圏でも団体誘致プロモーションを行う。また、東北地方でのスポーツツーリズム誘致活動を追加し、視察ツアーにて実際に本村の施設との環境を総合的に判断してもらうことで、長期的な利用を視野に入れた関係性が構築できる方策を検討する。 ・周遊サイクルモニター事業を継続し、引き続き道の駅ぎのぎを起点に村内周遊を促して、地域経済への波及を図る。 ・訪日外国人観光客向けのパンフレットや案内放送等を整備するとともに、道の駅「ぎのぎ」でのイベントを増強することで誘客効果を高める。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> <tr> <td>47,834</td> <td>47,834</td> <td>38,267</td> <td>9,567</td> <td>0</td> </tr> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	47,834	47,834	38,267	9,567	0	<ul style="list-style-type: none"> ・観光誘客プロモーション事業 ・観光プログラム開発実施事業 ・観光人材育成事業 ・イベント事業 ・外部専門家活動事業
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費							
47,834	47,834	38,267	9,567	0							
<table border="1"> <tr> <td style="width: 100px; height: 100px; vertical-align: middle;"> 宜野座村 47,834千円 </td> <td style="width: 100px; height: 100px; vertical-align: middle;"> 委託料 47,834千円 </td> <td style="width: 100px; height: 100px; vertical-align: middle;"> 宜野座村観光協会 47,834千円 </td> </tr> </table>	宜野座村 47,834千円	委託料 47,834千円	宜野座村観光協会 47,834千円								
宜野座村 47,834千円	委託料 47,834千円	宜野座村観光協会 47,834千円									

資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、本村に特化した観光振興を担う事業所となっており、その目的、成果達成に向けて委託先の選定は妥当であったと考える。 ・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。 ・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	秋の行楽シーズン、宜野座村や近隣市町村を訪れている観光客に対し、宜野座村の観光資源である、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公園を中心に、花火大会やステージイベントを開催し観光振興を図る。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(a)当初予算額	6,000	6,504	6,504	6,504
	(b)予算現額	6,000	5,960	6,504	6,504	
	(c)増減額(b-a)	0	▲544	0	0	
	(d)繰越額	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	6,000	5,960	6,504	6,504	
	B.執行済額	5,976	5,960	6,130	6,370	
	うち交付金充当額	4,780	4,767	4,904	5,095	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.6%	100.0%	94.2%	97.9%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施し適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	花火の打上	目標	(1,000発)	(1,000発)	(1,000発)	(実施)
		実績	1,000発	1,000発	1,000発	実施(1,000発)
	ステージイベント(伝統芸能等)	目標	()	()	()	(実施)
		実績				実施(15団体)
	PRチラシの作成	目標	(35,000枚)	(35,000枚)	(35,000枚)	(作成)
		実績	36,000枚	36,000枚	36,000枚	作成(37,500枚)
	警備員の配置	目標	(15名)	(16名)	(16名)	(配置)
		実績	15名	13名	16名	配置(10名)
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に宜野座村美ら島花火大会を開催し、花火1,000発の打ち上げを実施した。 ・地域芸能等のステージイベントを実施した。 ・PRチラシを作成し、新聞折り込みによる周知を図った。 ・警備員については、会場設営の見直し等により事業者と協議の上、安全確保できる人員の配置を行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	()	(10,000人)	(10,000人)	(10,000人)
	美ら島花火大会集客数(10,000人/2日間)	実績		7,000人	13,000人	13,600人
進捗状況説明	宜野座村美ら島花火大会を開催することにより、集客数の目標値を達成することができた。盛大に花火を打ち上げ、来訪者から好評の声も多く、宜野座村の魅力を発信することができた。					

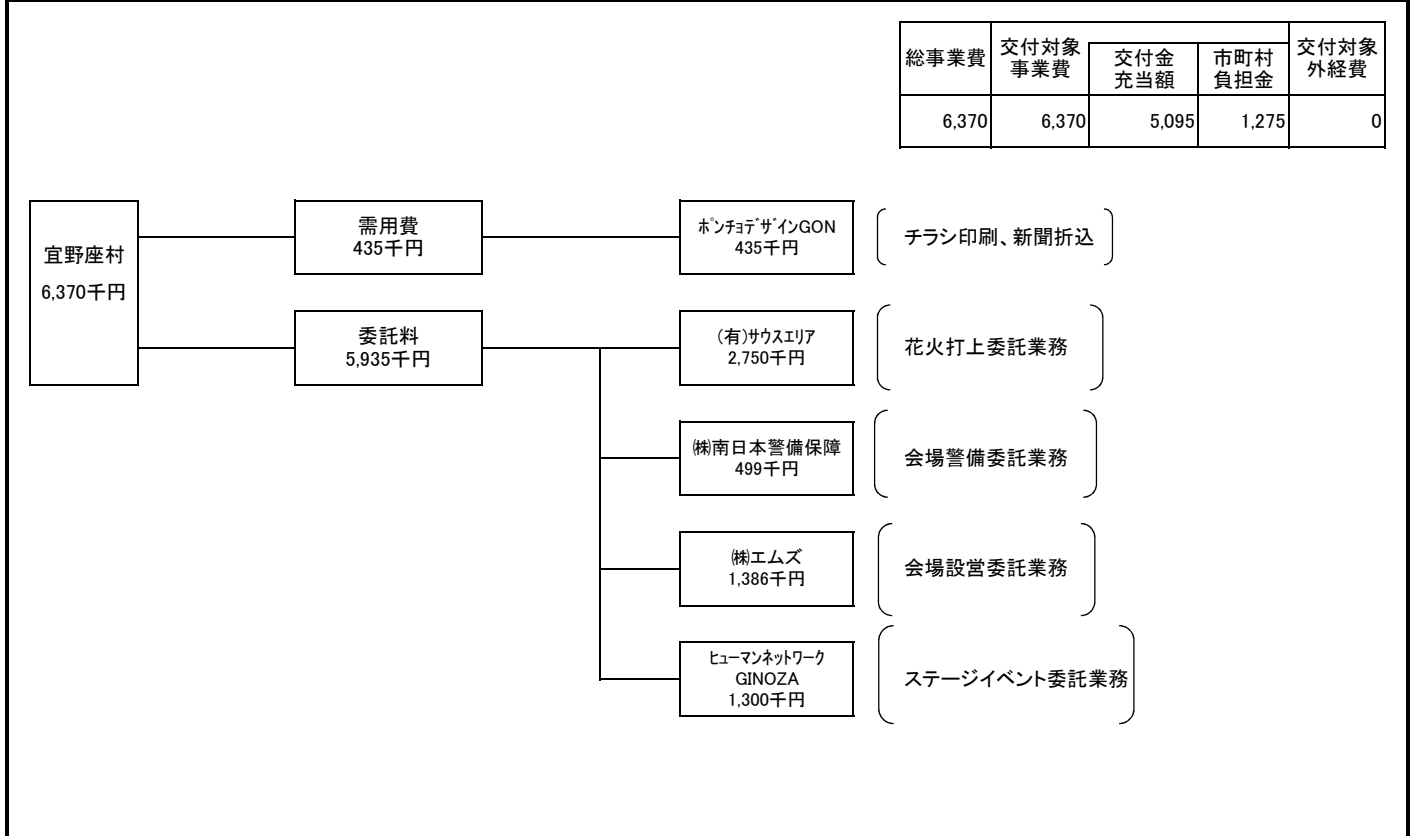
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 令和初の花火大会となることから、宜野座村まつりと連携し、ゾーン分け(メインエリア、子ども向けエリア、大人向けエリア)をして新たな客層の獲得を狙う取り組みを実施した結果、前年度よりも来場者が増加し、朝から夜まで楽しめる催しものとなった。 サブステージで大道芸やダンスバトルなど、多彩なプログラムを詰め込んだ結果、タイムスケジュールに遅れが生じた。 昨年の課題であった花火カスについては、これまでの反省を踏まえ、事前に打上場周辺住民への対策周知を複数回行い、安全対策を強化したことで、苦情等はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の実施については、新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえて検討を行う。また、実施の際は、更なる集客を図るため、計画的な周知活動に取り組む。 メインステージも含めて、プログラム構成等の見直しを検討する。

今後の取り組み方針

・新型コロナウイルス感染症の収束状況によってイベント開催有無の判断が必要となるため、同日開催する宜野座村まつりの実行委員会と連携して8月末までに方向性を決定し、広く周知する。また、例年より前倒しで手続きや資料作成に取り組み、チラシやSNSなどによる情報発信を強化する。

・サブステージイベントは時間に余裕を持ったタイムスケジュールを組み、来場者がメインもサブも両方楽しめるプログラムや取り組みを検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため、妥当であった。 ○事業費は内容通り遂行したため、適正な規模だった。 ○用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について金額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	宜野座村文化センターがらまんホール機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ		
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	がらまんホールに、音響、照明、映像等のデジタル機材を設置し、これまで以上の利用促進による文化振興及び観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	44,820				25,989
		(b)予算現額	44,820				18,900
		(c)増減額(b-a)	0				▲7,089
		(d)繰越額	0				0
		A.計(b+d)	44,820				18,900
	B.執行済額		44,820				18,900
	うち交付金充当額		35,856				15,120
	次年度繰越額		0				0
	執行率(%) (B/A)		100.0%				100.0%
予算の状況の説明		減額については、指名競争入札による入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	デジタルモニターシステムを導入する。	目標	(-)	(-)	(-)	(導入)	
		実績	-	-	-	導入完了	
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初計画のとおり、宜野座村文化センターがらまんホールの主要箇所にデジタルモニタリングシステム(一式)を設置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R4年度)
	デジタルモニター実施設計・設置完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績	/			完了	/
	【R4成果目標】年間入場者数22,409人以上		目標	(-)	(-)	(-)	(22,409)
			実績	20,326	18,548	14,426	/
進捗状況説明	宜野座村文化センターがらまんホールにおいて、デジタルモニタリングシステムの実施設計・設置を完了した。成果目標は、これまでのがらまんホールの利用者数をもとに、事業が完了するR4年度における利用者数の目標数値として作成した。令和3年度までは各種デジタル機器設置作業により、ホールが利用できない日数や新型コロナウイルス感染症の影響で休館日の増があり、利用者数の減が予想される。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>R1年度はLANネットワークを利用したモニタリングシステムを構築し、舞台状況や施設の運営状況を正確に把握し、運営をスムーズに行えるよう映像機器を設置した。</p> <p>これにより運営者側の業務効率及び来場者の管理体制等が向上し、イベント主催者からは「次回も当ホールを使用したい」という意見が多く寄せられた。「画質も良く舞台の映像や進行状況が把握でき、演出補助がスムーズにできた。」と好評の感想もいただいた。</p>	<p>今後も本村の文化事業を外部へ発信し、利用者増を図るため、R2年度からR3年度にかけて、村の文化振興の中心的施設である宜野座村文化センターがらまんホールの各種機器の機能強化を実施する。</p>

今後の取り組み方針
<p>R2年度はデジタル音響システムの導入、R3年度は照明機能の高度化を行うことで、がらまんホールの総合的な機能強化を図り、集客人数増を目指す。ただし、今後も新型コロナウイルスの影響により、3密を避けることがイベント開催条件となることが予想され、入場者数の制限等、運営方法について検討していく必要がある。また、収束まで長期間かかる場合は、目標値の見直しも必要となる可能性がある。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,900	18,900	15,120	3,780	0


```

graph LR
    A[宜野座村  
18,900千円] --> B[備品購入費  
18,900千円]
    B --> C[株式会社うらまAVセンター  
18,900千円]
    subgraph Note
    D[宜野座村文化センターがらまんホール  
館内イントラネット映像システム]
    end
    C --- Note
  
```

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○競争入札を実施したことで、当初予算額よりも低価格で施設の機能強化を図ることができたため、事業内容に見合った適正な予算規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	農村沿道景観向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	魅力的な自然環境観光地を形成するため、リゾート観光客の散策路(農道)の美化に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R1年度	R2年度	R3年度		
		(a) 当初予算額	3,607				
		(b) 予算現額	2,974				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 633				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計(b+d)	2,974				
		B. 執行済額	2,974				
		うち交付金充当額	2,379				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	当初計画していた内容に沿って事業を実施した。 事業費減額は、天候の影響で作業日数が減となったことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度		
		美化作業員配置2名	目標 (2名)	()	()	()	
			実績 2名				
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	委託先である土地改良区が作業員2名を配置し、年間を通じて散策コース4ルートの草刈り及び伐採作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	令和元年成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
		安全で快適な散策ができたか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより本事業の在り方を検証する。	目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績	未実施			
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
		進捗状況説明	年間10件ほど寄せられていた苦情が、令和元年度は0件であったため効果があったと考えられる。しかし、成果の検証として年度末に予定していたアンケートが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で実施することができなかった。今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況を注視しながら、アンケートを実施する予定である。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで宿泊施設周辺付近の農道・沿道においては雑草等が茂り景観が損なわれていたが、年間をとおして草刈り・伐採作業を実施することで観光地の景観形成が図られ、令和元年度の苦情件数は0件であった。 ・作業範囲が広いことや、雨天時の作業中断などにより予定より作業が進まない状況があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き当事業に取り組み景観向上を継続し、宜野座村を訪れた観光客の満足度については、宜野座村観光協会等と連携し聞き取り等による調査を実施する。 ・作業範囲や効率、夏期の熱中症対策のため適切な休憩などを考慮し、今回の作業員2名を1名増員の3名として実施する。

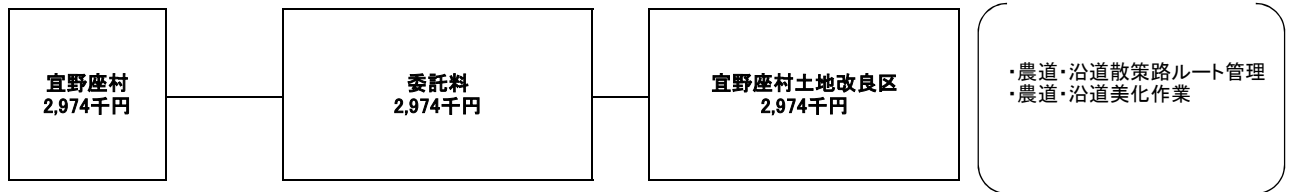
今後の取り組み方針

・沖縄県は他都道府県に比べ、年間を通じて植物の繁茂スピードが速く、通年で継続的な実施が必要である為、今後も継続して土地改良区と連携し取り組む。

・効率的な実施に向け作業員1名を増員して、3名体制で景観向上に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,974	2,974	2,379	595	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託先の宜野座村土地改良区は、本村の土地改良施設の管理に携わっている団体であるため、その目的、成果達成に向けて委託先の選定は妥当であったと考える。 ・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。 ・用途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3	
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を小学校に配置し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	9,920	13,440	15,360	15,360	15,399
	(b) 予算現額	9,920	13,440	13,440	13,218	13,493	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,920	▲ 2,142	▲ 1,906	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	9,920	13,440	13,440	13,218	13,493	
	B. 執行済額	9,920	13,331	13,440	13,166	12,304	
	うち交付金充当額	7,936	10,664	10,752	10,533	9,843	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.2%	100.0%	99.6%	91.2%	
予算の状況の説明	当初は学習支援員を8人配置できておらず、年度途中の採用となったため不用額が生じたことから、3月補正で1,906千円を減額した。また、3月については新型コロナウイルス感染症予防対策により各学校が臨時休校となったことから、執行率が91.2%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学習支援員配置数 松田小学校2名 宜野座小学校4名 漢那小学校2名	目標	(7名)	(8名)	(8名)	(松田小:2名 宜野座小:4名 漢那小:2名)	
		実績	7名	7名	7名	松田小:2名 宜野座小:4名 漢那小:2名	
	【参考指標】 支援児童数	目標	(478名)	(481名)	(492名)	(520名)	
実績		478名	478名	499名	511名		
達成状況説明	当初は学習支援員を8人配置できなかったが、年度途中に8人を配置し、3小学校児童511人に対して教諭と連携を図りながら支援を行うことができ、活動目標は達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上) ・小学校3年・4年・5年・6年(算数)	目標	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
		実績		3年算数(-3.6) 4年算数(-6.3) 5年算数(-1.7) 6年算数(-2.7)	3年算数(-4.2) 4年算数(-1.6) 5年算数(-1.8) 6年算数(-1.5)	3年算数(-4.8) 4年算数(-5.0) 5年算数(-2.0) 6年算数(3.1)	
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果から、小学校6年の算数においては県平均を3.1ポイント上回ることができた。小学校3年~5年の算数においては、いずれも県平均には届かず、目標は未達成となった。						

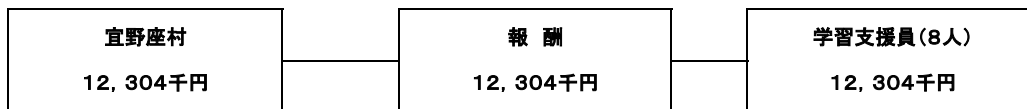
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた支援が行えるよう担当教諭と連携を密にしながら、個別指導や繰り返し学習を行い、基礎・基本的学習の定着を図った。 成果目標は未達成となったが、学校によっては小学校3年から6年生の算数で県平均を上回るなど、昨年度と比較して状況が改善されている学校もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に支援が必要な児童に対しては、引き続き放課後の補習指導などを行い、基礎・基本的学力の定着と、学ぶ意欲の向上を図る。 沖縄県学力到達度調査等の結果を検証することで児童の実態を把握し、指導方法や体制の工夫改善に取り組む。

今後の取り組み方針

- 放課後や長期休業期間の補習指導を計画的かつ継続的に実施し、確かな学力を身につけるよう取り組む。
- 学力到達度調査など諸調査の結果を分析するなど実態を把握し、教科担任と綿密に情報交換を行いながら、学習指導の工夫改善、充実を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
12,304	12,304	9,843	2,461	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定については、学校教育指導主事の意見等も参考に面接を実施して選定している。 ○支援員の配置人数についても、学校等のヒアリングにより決定しており、適正であった。 ○費目、使途については、児童の学力向上を目的とした支援に要するものであり、必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	中学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3		
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を中学校に配置し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
		(a) 当初予算額	7,200	12,000	14,640	14,640	14,640	
	(b) 予算現額	7,200	11,200	12,151	14,640	14,770		
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 800	▲ 2,489	0	130		
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0		
	A. 計(b+d)	7,200	11,200	12,151	14,640	14,770		
	B. 執行済額	7,200	11,200	12,151	13,343	11,343		
	うち交付金充当額	5,760	8,960	9,720	10,674	9,074		
	次年度繰越額	0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	91.1%	76.8%		
予算の状況の説明	5人の学習支援員の配置を業務委託していたが、当初は5人配置ができておらず、また、3月については新型コロナウイルス感染症予防対策により各学校が臨時休校となったことから、3,427千円の不用が生じた。							
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	学習支援員配置数等 宜野座中学校 5名 (英語、国語、数学、理科、社会各教科1名)	目標	(5名)	(5名)	(5名)	(5名)		
		実績	5名	5名	5名	5名		
	【参考指標】 支援生徒数	目標	(202名)	(229名)	(206名)	(233名)		
実績		201名	223名	208名	234名			
達成状況説明	当初は学習支援員を5人配置できなかったが、年度途中より5人配置し、中学校生徒234人に対し教諭と連携を図りながら支援を行うことができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
			目標	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上) ・中学校2年(国語、数学、英語、理科、社会)		実績		中2国語(0.7) 中2数学(-6.2) 中2英語(-0.5) 中2理科(3.3) 中2社会(-4.7)	中2国語(8.7) 中2数学(9.9) 中2英語(9.8) 中2理科(8.4) 中2社会(4.4)	中2国語(-0.4) 中2数学(-1.7) 中2英語(0.6) 中2理科(15.4) 中2社会(7.3)	
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果、中学校2年生の英語、理科、社会においては、県平均を上回ることができたが、国語、数学については、いずれも県平均には届かず、目標は未達成となった。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に積極的に関わることで個々を見極め、担当教諭と連携しながら生徒の学力に応じた学習支援を行うことで学力の向上に取り組んだ。 国語、数学については県平均を下回っており、支援内容の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の補習や長期休業中の学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の定着を図る。 漢字検定や数学検定など各種検定試験への取り組みを推奨し、合格率を上げることで、学ぶ意欲を高め、学力の向上につなげる。

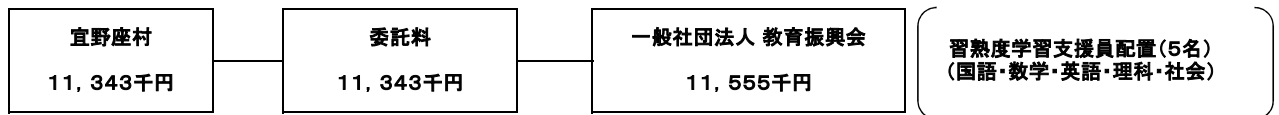
今後の取り組み方針

・授業中の支援や放課後の補習などについては事前に支援計画を立て、長期休業期間(夏休みなど)についても、サマースクールなど補習指導に引き続き取り組み、学ぶ意欲を高め、学力の定着及び向上を図る。

・漢字検定・数学検定における補習指導を充実し、各種検定試験を積極的に取得させることで、学習意欲の向上や達成感の醸成を図り、国語・数学の支援を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,555	11,343	9,074	2,269	212



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をプロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。 ○委託料の支払いについては、出勤簿等を確認の上行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3	
事業内容	保護者が安心・安全に子どもを預け育児における負担感の軽減を図るため、幼稚園において預かり保育を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	7,360	7,360	7,360	7,360	11,550
	(b) 予算現額	7,125	7,360	6,248	9,080	11,550	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 235	0	▲ 1,112	1,720	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	7,125	7,360	6,248	9,080	11,550	
	B. 執行済額	7,069	7,250	6,248	8,488	10,474	
	うち交付金充当額	5,655	4,666	4,998	6,790	7,920	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.2%	98.5%	100.0%	93.5%	90.7%	
予算の状況の説明	預かり保育担当者の無給休暇の取得等により、1,076千円の不用が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	預かり保育担当職員配置数 松田幼稚園2名 宜野座幼稚園2名 漢那幼稚園2名	目標	(4名)	(4名)	(6名)	(松田幼:2名 宜野座幼:2名 漢那幼:2名)	
	実績	4名	4名	6名	松田幼:2名 宜野座幼:2名 漢那幼:2名		
達成状況説明	<p>預かり保育員6名を雇用し、村内3か所の村立幼稚園へ担当者を2名ずつ配置した。</p> <p>担当者を2名ずつ配置できたことで、園児の安全確保や保育サービスの充実につながり、また希望園児67名中67名全員を受け入れることができ、受入率100%を達成できた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%)を含め、対象となる幼児の保護者へのアンケートで事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実績		100%	100%		
進捗状況説明	<p>対象となる園児の保護者に対してアンケートを実施したところ、安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じたと回答した割合は100%となり、目標値を達成した。</p> <p>通園する園児の世帯の内、9割がフルタイムで就業しているため、担当者を6名配置できたことで、午後の預かり先を提供でき、子育て世代のニーズに応えることができた。</p>						

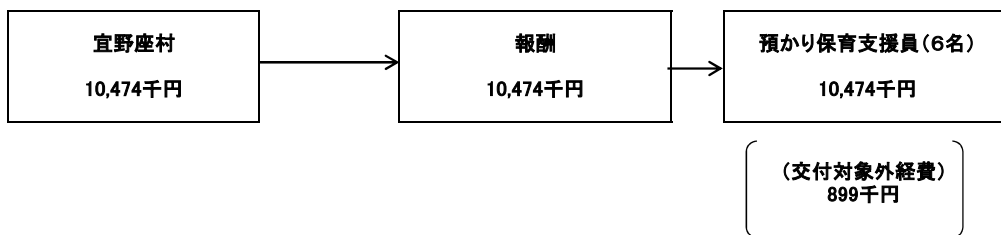
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 園によって利用者数が大きく異なるため、子どもの数に応じて遊びの内容や提供を工夫し、円滑に預かり保育を実施していく必要がある。 配慮が必要と思われる園児がいるため、園児の様子を観察し、就学前の引継ぎ資料へ盛り込む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園指導要領に沿った遊びの引き出しや、効果的な遊びを園児へ提供できるよう、専門家を招いた研修の充実を図る。 配慮が必要と思われる園児の預かり保育中の様子を観察し、幼稚園教諭と情報を共有することで、小学校就学のための連携がスムーズに行えると考えられる。

今後の取り組み方針

- 園児へ効果的な遊びを提供できるよう、講師を招聘し実践的な研修を実施する(年1回)。また、定期的に預かり保育担当者の情報交換会を実施する。
- 配慮が必要と思われる園児の様子を観察しながら、幼稚園教諭と連携し、就学前の引継ぎ資料へ預かり保育中の様子等の情報提供を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,373	10,474	7,920	2,554	899



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の雇用については、宜野座村非常勤嘱託職員取扱要綱に基づき雇用しており、妥当である。 ○支援員の配置数については、宜野座村立幼稚園預かり保育に関する規則に基づき積算しており、適正な規模である。 ○費目、用途については、預かり保育に要するものであり、必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

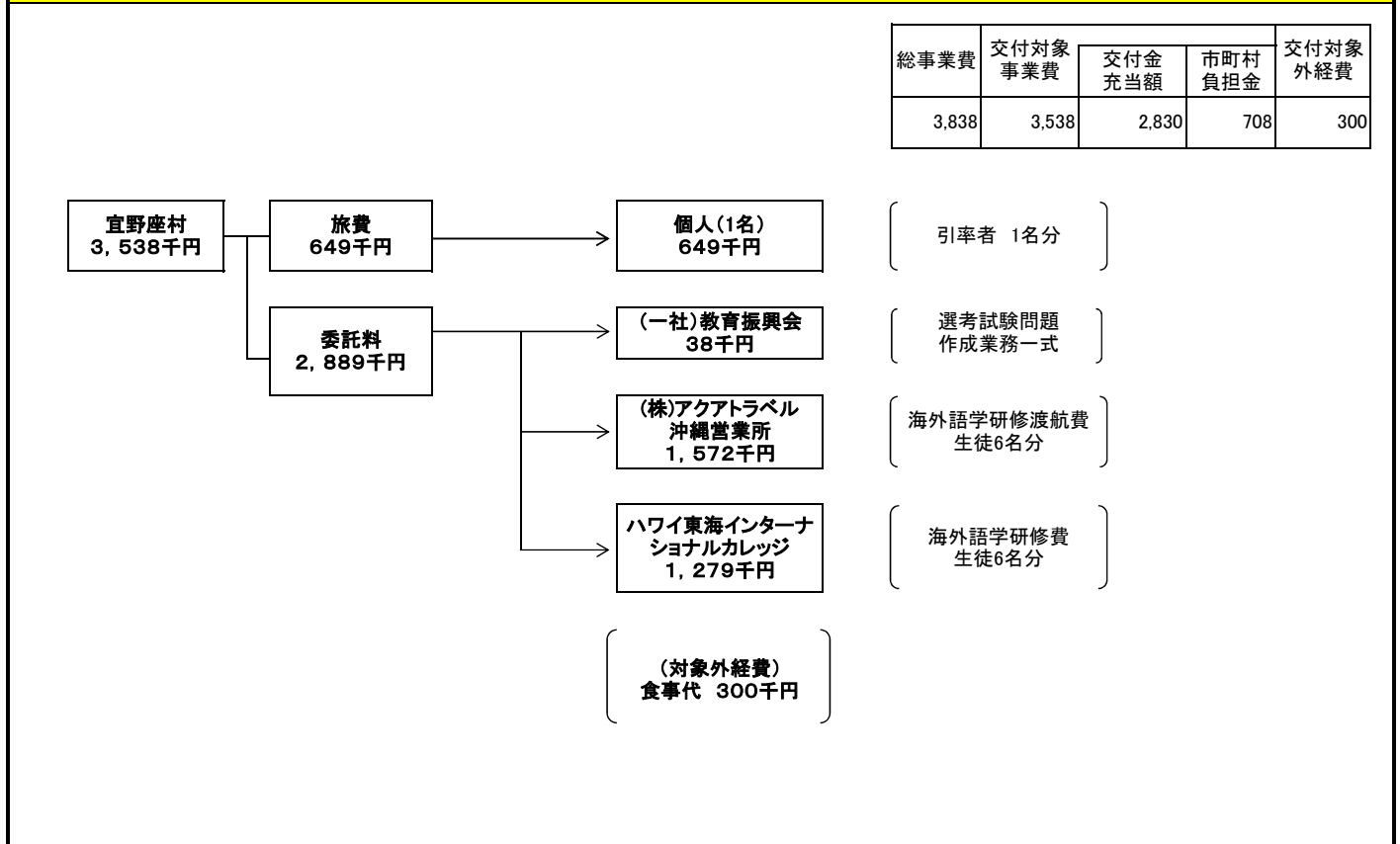
市町村名		宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④	宜野座村ジュニア海外語学研修派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 III-3			
事業内容	海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材を育成するため、夏休み期間中に村内の中・高校生6名を英語圏へ派遣する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,600	4,797	4,505	4,645		
		(b) 予算現額	4,563	4,105	3,813	4,645		
		(c) 増減額(b-a)	963	▲ 692	▲ 692	0		
		(d) 繰越額	0	0	0	0		
		A. 計(b+d)	4,563	4,105	3,813	4,645		
	B. 執行済額		4,142	3,871	3,813	3,538		
	うち交付金充当額		3,281	3,096	3,050	2,830		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		90.8%	94.3%	100.0%	76.2%		
予算の状況の説明		ハワイで利用していたバスのチャーター料等の費用を抑えることができたこと、また、航空運賃の為替レート変動の関係により、1,107千円の不用が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・研修先:アメリカ合衆国(ハワイ州) ・内容:現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流等 ・ホームステイ4泊、大学寮13泊		目標	(6名)	(6名)	(6名)	(実施)	
			実績	6名	6名	6名	実施	
			目標					
		実績						
達成状況説明	令和元年7月24日~8月13日の21日間(うちホームステイ4泊、大学寮13泊)、中・高校生6人をアメリカ合衆国ハワイ州へ派遣し、現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。		目標	()	(80%)	(80%)	()	()
			実績		83%	80%		
			目標					()
			実績					
進捗状況説明	生徒の帰国後、保護者へ生徒の英語学習への意欲や国際的な視野が広がったかについてのアンケートを実施したところ、80%以上の保護者が本事業の成果を実感し、肯定的な回答を得ることができた。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に英会話への苦手意識が強く、研修中に会話を避けたり、無言になることがあったため、渡航前に苦手意識を克服できるような取り組みを行う必要がある ・保護者や生徒から現地での過ごし方や防犯面など、安全に関する質問が多く寄せられたほか、渡航後に環境の変化に適応できずホームシックにかかる生徒がいるため、研修先の環境や研修内容の詳細を知ってもらう取組が必要である。 ・研修を受けた生徒たちが、英語学習への意欲や広い視野で物事を捉えられる人材となっているか確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話への苦手意識を克服するため、現在行っている英会話レッスンを今後も続ける必要がある。 ・オリエンテーション及びOBとの座談会を開催することで、現地の詳細を経験者から聞くことができ、不安解消や現地でのギャップを小さくすることが可能であると考える。 ・過去に当該語学留学を経験したOBへ、事後アンケートを実施する。

今後の取り組み方針

- ・前年度と同様、英会話への苦手意識の克服に効果的だった、研修先で使用頻度の高い英会話レッスン(3回)を渡航前に開催する。また、生徒と担当職員、生徒同士の信頼関係を構築する場とするため、英会話レッスンは担当職員含め全員参加とする。
- ・研修先の具体的な過ごし方や現地の様子を知るために、OB等を招いた座談会やオリエンテーションを開催する。
- ・過去に研修を受けた生徒全員へアンケートを実施し、本事業が英語学習への意欲と人材育成にどう影響したのか事後検証を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣者決定から航空券確保までを短期間で行うことから、見積もり入札を実施し、最低価格業者と随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	また、短期語学研修プログラム等を実施しているハワイ東海インターナショナルカレッジと随意契約を行った
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模は適正であった
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○受益者との負担関係は妥当であった ○費目、用途については検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	有機の里宜野座村確立事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	有機の里宜野座村を目指し、沖縄県環境保全型農業推進協議会の認証を受けたエコファーマーの増加並びにエコ農産物の販売量の拡大を図るため、減農薬や、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	12,052	11,661	11,431	11,431	11,354
	(b)予算現額	11,433	11,321	11,431	11,306	11,252	
	(c)増減額(b-a)	▲619	▲340	0	▲125	▲102	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	11,433	11,321	11,431	11,306	11,252	
	B.執行済額	11,336	11,315	11,301	11,306	11,252	
	うち交付金充当額	9,069	9,051	9,040	9,045	9,002	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.2%	99.9%	98.9%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		概ね計画どおりに事業を実施することができた。不用額は、協議会の開催が年度末となり、委員報酬を村単独予算で支出したこと等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	目標	()	()	()	()	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	
	実績					協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	
	【参考】 エコファーマーの認定に向けた栽培指導及び生産拡大	目標	(480回 120トン)	(480回 130トン)	(480回 135トン)	(480回 135トン)	
実績		503回 92トン	542回 116トン	554回 101トン	561回 69トン		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 有機の里推進協議会を開催し、エコ農産物の生産販売拡大に向けた取り組みについて協議を行った。 有機の里推進協議会にアドバイザー(大学農学部において講師経験のあるもの)を招聘し、有機の里推進に向けたアドバイスを受けた。 農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につなげた。 土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員により、エコファーマー認定取得のための技術指導や認定申請書作成の支援を行った。 販売戦略推進員が、大手スーパーや卸売業者と交渉し必要のある品目を把握するとともに販売先を確保した。また、農業栽培指導技術員や農家と連携して有望な栽培品目について生産体制を構築した。 エコファーマーの新規認定者を確保するために、認定取得時に販売袋用エコマークラベルを1農家当たり20,000枚給付することになっているが、今年度は2名の新規認定者を確保することが出来、40,000枚の給付を行った。 農業栽培指導技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数の目標480回に対して、561回の指導を行うことが出来た。しかし、夏場の主要作物である赤モウイなどが梅雨の長雨で雌花が落下したことで、収穫量が激減したこと。また、鳥ラッキョウについては暖冬の影響で分球が過剰になり不良品が多く発生し出荷量が減ったこと。さらに、新型コロナの影響で2月~3月の注文が大幅に減少したことなどから販売目標の135トンを大きく下回る69トンという結果となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	目標		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	エコファーマーの認定者数		()	(2名)	(2名)	(3名)	()
	実績			2名	2名	2名	
	エコ農産物販売目標		()	(130トン)	(130トン)	(135トン)	()
実績			116トン	101トン	69トン		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> エコファーマーの認定者は2名であり、目標を達成することができなかった。 エコ農産物販売量については、前年度から減少し69トンとなり、目標に届かなかった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(エコファーマーの認定者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> エコファーマー認証について3人の新規認定取得を目標とし、認定希望者や新規就農者等に認定取得を呼びかけたが、希望者は2人であった。この2人については、専門指導員によるアドバイスをを行い、新規認定を受けることが出来た。 <p>(エコ農産物販売量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長雨や暖冬、新型コロナウイルスの影響により農産物販売量は69トンとなり約51%の達成率となった。特定の作物のみを生産している場合、天候等に異常が生じると多くの作物が収穫できず、生産量が極端に落ち込むことがある。 	<p>(エコファーマーの認定者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> エコファーマー認定者数は令和3年度までに30名を目標としていたが、平成24年度から令和元年度までの実績は36名となっており、計画通り増加している。今年度は目標達成には至らなかったが、毎年継続して認定取得者を確保できているので、今後も引き続き認定取得者を確保していきたい。 <p>(エコ農産物販売量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 天候等環境要因の影響を受けやすい夏野菜の取り扱い品目を増やしている。

今後の取り組み方針

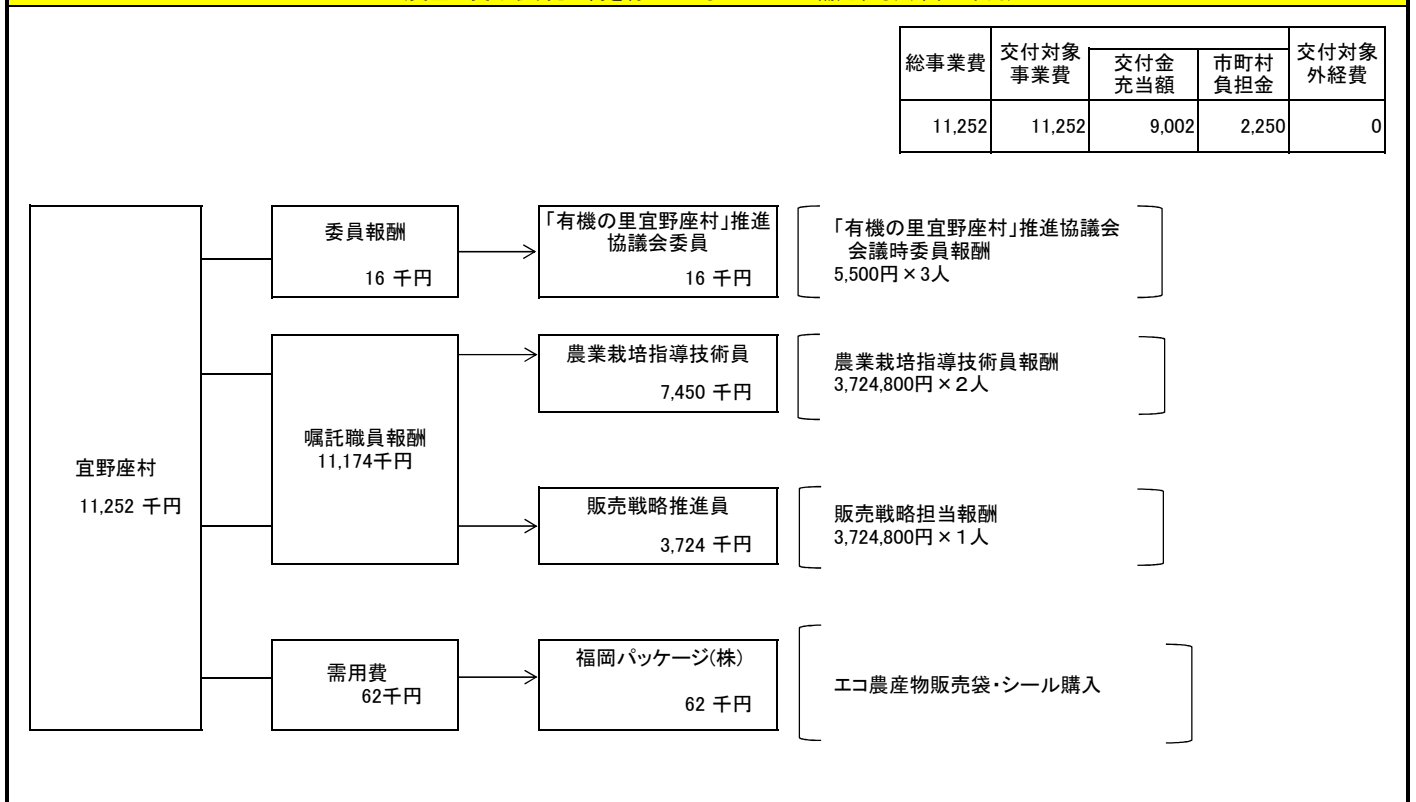
(エコファーマーの認定者数)

- 販売戦略担当員が村の特産品加工直売センターに出向き、直売センターに出荷している生産農家にエコファーマー認証取得のメリットを周知し、認定取得希望者を募り栽培指導員と連携し、栽培指導と認定手続きの支援を行うことで認定取得につなげる。

(エコ農産物販売量)

- 作物の種類については、取引先より需要のある作物の情報を得たうえで、試験的な栽培を行いながら、栽培環境が適していると判断した場合に生産拡大を行っていく。この作業を繰り返し、取り扱い品目を増やして安定的な販売量の確保に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費用の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○協議会委員の選定については、農業関係機関の代表や地域の代表、行政機関の代表など多方面からの意見を集約できるよう選定しており、嘱託職員についても、営農指導の経験豊富な者・農業関連の専門的知識を有する者・販路開拓の経験を有するものを選定していることから妥当であったと考える。エコファーマーラベル製作については見積を徴取し最低見積業者に発注しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委員報酬・嘱託職員報酬・農業経営アドバイザーの報償費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき積算しており、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	農業用観光施設モデル整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	県内外から多くのイチゴ狩り来客者を受け入れることで、観光型農業による本村観光の振興を図るため、イチゴ用ハウス及び作業棟の整備を行う。						
効果発現年度	■当年度		■後年度(令和2年度)				
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	46,995	0	55,252	51,273	53,506
	(b)予算現額	31,449	0	55,252	64,091	62,854	
	(c)増減額(b-a)	▲15,546	0	0	12,818	9,348	
	(d)繰越額	15,506	15,506	0	0	0	
	A.計(b+d)	46,955	15,506	55,252	64,091	62,854	
	B.執行済額	31,449	14,904	55,188	50,716	62,854	
	うち交付金充当額	20,127	9,538	35,320	40,572	50,283	
	次年度繰越額	15,506	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	67.0%	96.1%	99.9%	79.1%	100.0%	
予算の状況の説明	当初計画していたハウス、作業棟に関しては計画通りの規模と仕様を実施することができた。建築資材の高騰や人件費の高騰により事業費9,348千円を増額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・農業用観光施設工事 1,800㎡/1棟	目標	(1棟)	(1棟)	(1棟)	(1棟)	
		実績	1棟	1棟	1棟	1棟	
・作業棟設置工事 68㎡/1棟	目標	(1棟)	(1棟)	(1棟)	(1棟)		
	実績	1棟	1棟	1棟	1棟		
達成状況説明	ハウス(農業用観光施設)に関しては、一部バリアフリー対応として通路を大きく確保したり、車いすや子供用にイチゴベンチを低くしたりと、様々な工夫を行い、1,800㎡/1棟を整備した。作業棟に関しても、車いすでも快適にトイレが使用できるようにスロープや手すりを設置し、68㎡/1棟を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
		イチョゴ狩り来客者 4,100名	(3,000人)	(3,000人)	(5,300人)	(4,100人)	(4,100人)
		実績	2,400人	100人	5,673人	2,195人	
	【参考指標】イチョゴ出荷量	目標	()	(2,700kg)	(2,700kg)	(2,700kg)	()
実績			4,500kg	1,890kg	90kg		
進捗状況説明	イチョゴ狩り来客者については、収穫時期である令和元年12月から令和2年5月上旬までの目標値4,100人に対し、実績値2,195人となり、目標を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、イチョゴ狩りの予約キャンセルが多々あったこと、また、通常より1ヶ月ほど早く受入を終了したことが要因と考える。イチョゴ出荷量については、イチョゴ狩りを重点的に行ったことにより前年度から大幅減となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用観光施設(イチゴハウス)の一部をバリアフリー対応にしたことで、障害者施設の受け入れも可能となった。イチゴ狩り来客者の増加に向け、障害のある方や海外観光客も含め、幅広く誘客活動に努めていく必要がある。 ・イチゴの品種により生育状況に差があるため、出来るだけ長期間で安定的な「いちご狩り」体験を供給できるよう取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご狩りシーズン前頃から観光パンフレットやメディアを活用しPRを行うほか、予約システムの更なる機能強化や、外国語看板設置等を検討する。 ・最盛期が重ならないよう、数種類の品種の栽培などを検討する。

今後の取り組み方針

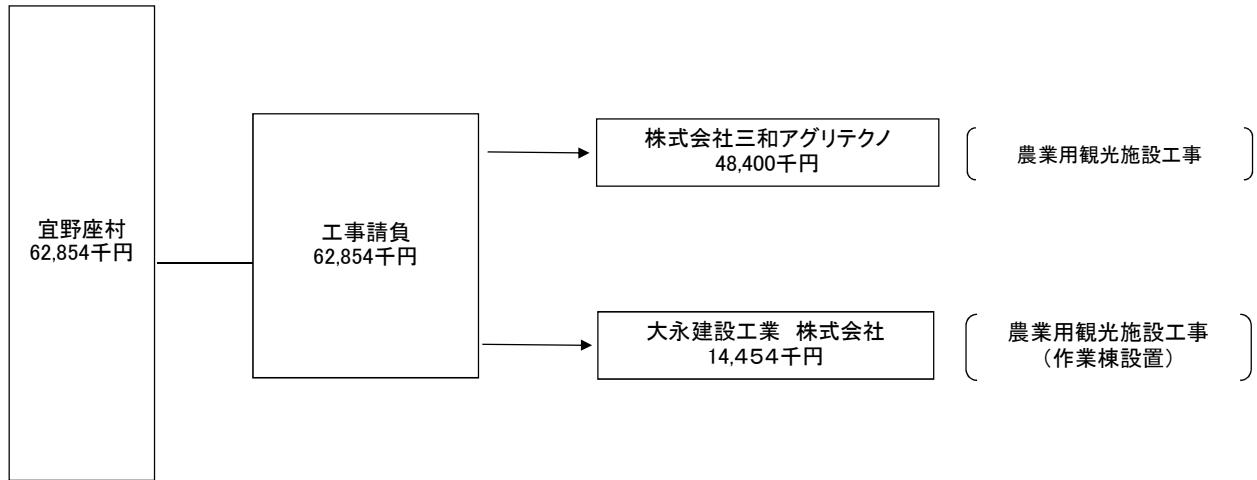
・村内観光関連パンフレットや村勢要覧等により通年で「イチゴの里」宜野座村をPRするとともに、いちご狩りシーズン前頃から新聞やTVメディア、インターネット(SNS)等を活用しPR強化を行う。また、外国人観光客の対応を強化するため、予約システムや案内板などの多言語化について検討していく。

・イチゴ生産組合等により、農家の技術向上と情報共有を図り、数種類の品種を栽培するなど、出来るだけ長期間で安定的な「いちご狩り」体験を供給できるよう取り組むとともに、生育状況の情報発信等についても検討していく。

これまでの取組により、いちご狩りは本村における重要な観光資源へと成長している。引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながらイチゴ狩りを実施するとともに、いちご狩りが実施出来ない場合の対策については、村内での販路確保等、行政も一緒になり取り組んでいく必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
62,854	62,854	50,283	12,571	0



資金の流 れの点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設計委託料及び請負工事費の業者選定は、本村指名委員会で選定した業者を指名し、競争入札を実施しており、妥当であったと考える。 ○単年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○受益者である農家から総事業費の2割を負担しており、事業内容等を判断しても妥当であったと考える。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	さとうきび営農指導委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定等の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびの増産を図るため、営農指導員による管理作業や営農指導等を行う。また、担い手を確保し、講習会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,089	1,584	1,320	1,323	
			973	1,281	1,320	1,323	
			▲ 116	▲ 303	0	0	
			0	0	0	0	
			973	1,281	1,320	1,323	
		B. 執行済額	973	1,281	1,320	1,323	
		うち交付金充当額	778	1,025	1,056	1,058	
		次年度繰越額	—	—	—	—	
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明	当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度		
	営農指導員による管理作業の指導・担い手を確保し、営農指導や講習会を実施する。 ・営農指導員配置1名	目標	(1名)	()	()	()	
		実績	1名				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	営農指導員1名を配置し、栽培農家154名(延べ340名)、新規栽培農家1名に対し指導を行った。 営農指導員は、農家や新規農家が積極的に栽培方法を聞いたり、会議にも参加し助言するなど、本村のさとうきび栽培に重要な役割を担っている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	令和元年生産量5,264t以上	目標	()	(4,480t)	(5,264t)	(5,264t)	()
		実績		5,757t	5,103t	4,042t	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	令和元年度生産量の実績値4,042tとなり、目標を達成することができなかった。 H30年度の台風の影響により、春植え苗の状態が悪く春植え面積が減少したこと、生育期の日照不足や多雨などが要因と考えられ、沖縄県全体でも減産となっている。						

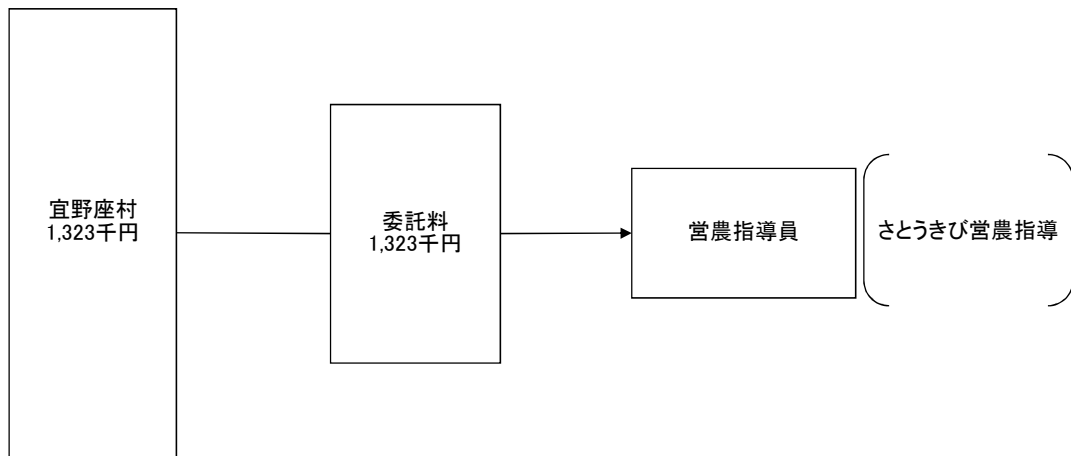
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>営農指導により、適期から作業が遅れる農家は少なくなったが、農業者の高齢化等で管理不足のほ場が見受けられるほか、離農により栽培面積が減少している。</p>	<p>高齢農家等に対しては、営農指導員による管理作業の指導を徹底し、地域生産組合への作業委託なども紹介する。また、栽培面積減少対策として、農業委員会や生産組合等と協議し、遊休地等でのさとうきび栽培を目指す。</p>

今後の取り組み方針

本事業開始前のH23～H27年度の平均収穫量は4.267tであったが、事業開始後、過去10年で最も収穫量が多いH28年度を除いたH29～R1年度の平均は4.967tと成果が出ていることから、令和2年度及び令和3年度も適期管理作業の指導を行い、さとうきびの増産に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

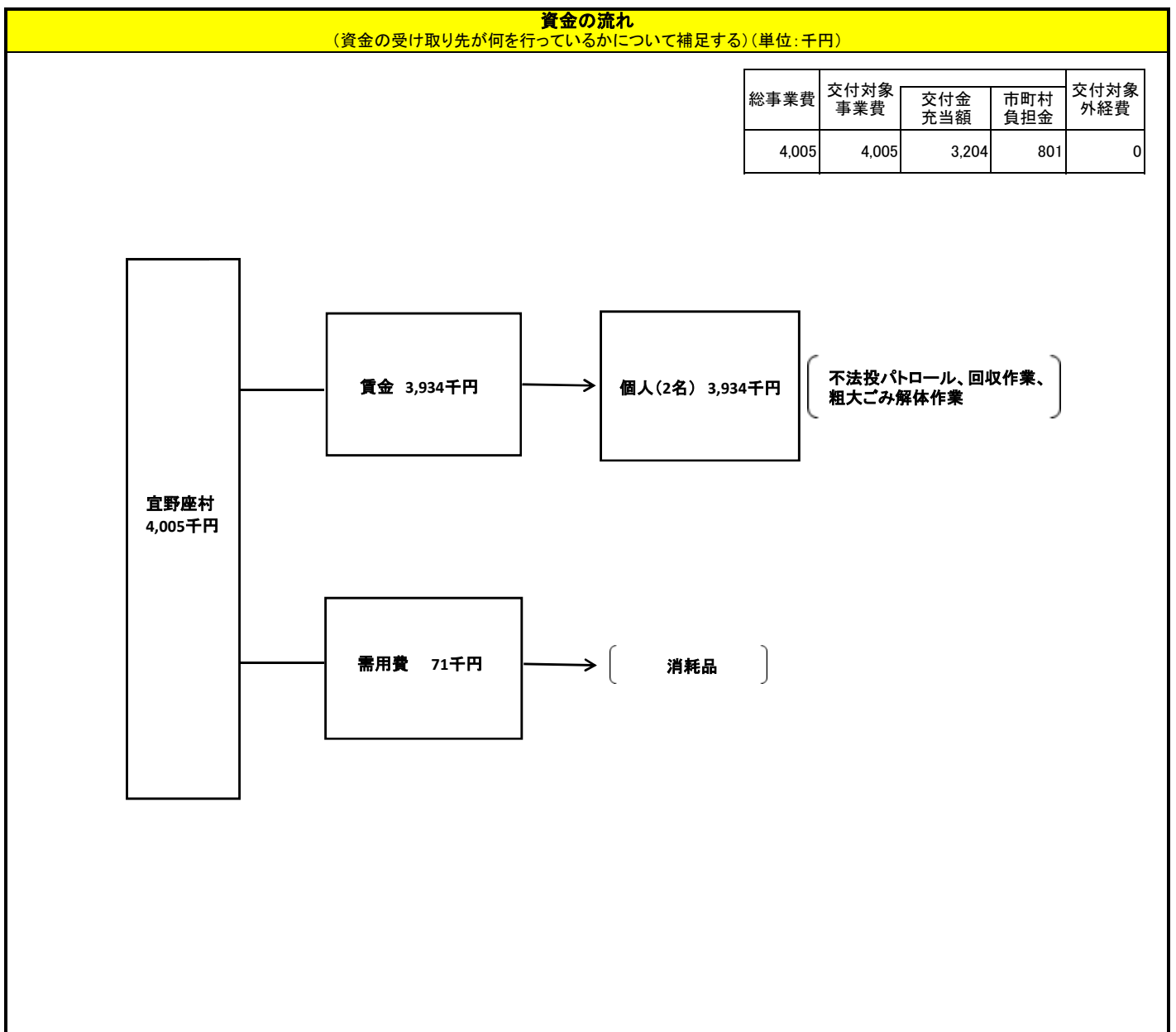
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,323	1,323	1,058	265	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○さとうきび栽培の知識や経験が豊富である個人と随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、宜野座村嘱託職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に積算している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ	
担当部課名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全	
事業内容	観光地の景観向上を図るため、観光ルートに専属の監視員を配置し、観光地に放置された不法投棄物の撤去を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	23,659	4,040	4,040	4,040	4,039
	(b) 予算現額	19,217	3,910	3,923	4,050	4,005	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 4,442	▲ 130	▲ 117	10	▲ 34	
	(d) 繰越額	0	0	0	0		
	A. 計(b+d)	19,217	3,910	3,923	4,050	4,005	
	B. 執行済額	19,217	3,910	3,923	4,049	4,005	
	うち交付金充当額	15,373	3,128	3,138	3,231	3,204	
	次年度繰越額	—	—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	監視カメラ等のメンテナンス等が予定より少なかったため事業費34千円を減額したが、当初予定した事業内容を計画通り実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	目標	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体)	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体)	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体)	(2名配置 監視実施 パトロール実施 不法投棄物撤去)		
	実績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	2名配置 監視実施 パトロール実施 不法投棄物撤去		
達成状況説明	監視・作業員配置2名を配置し、これまで不法投棄のあった場所の監視カメラによる監視、観光ルートのパトロール、放置された不法投棄物の撤去を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・観光地における不法投棄の減少10件/年以内	目標	()	(10件/年)	(10件/年)	(10件/年)	()
		実績		0件/年	2件/年	0件/年	
	【参考指標】 ・観光地ルートの景観向上(観光客から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。):満足度%	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	()
		実績		94%	90%	93%	
進捗状況説明	観光地における不法投棄件数は1年間で0件であり、目標値を達成した。 また、達成状況の客観的確認として、漢那ダムまつりにて宜野座村の自然や景観についてのアンケート調査を実施した。景観に対する満足度については、「満足」「やや満足」の回答の割合が、目標70%に対し93%であった。						

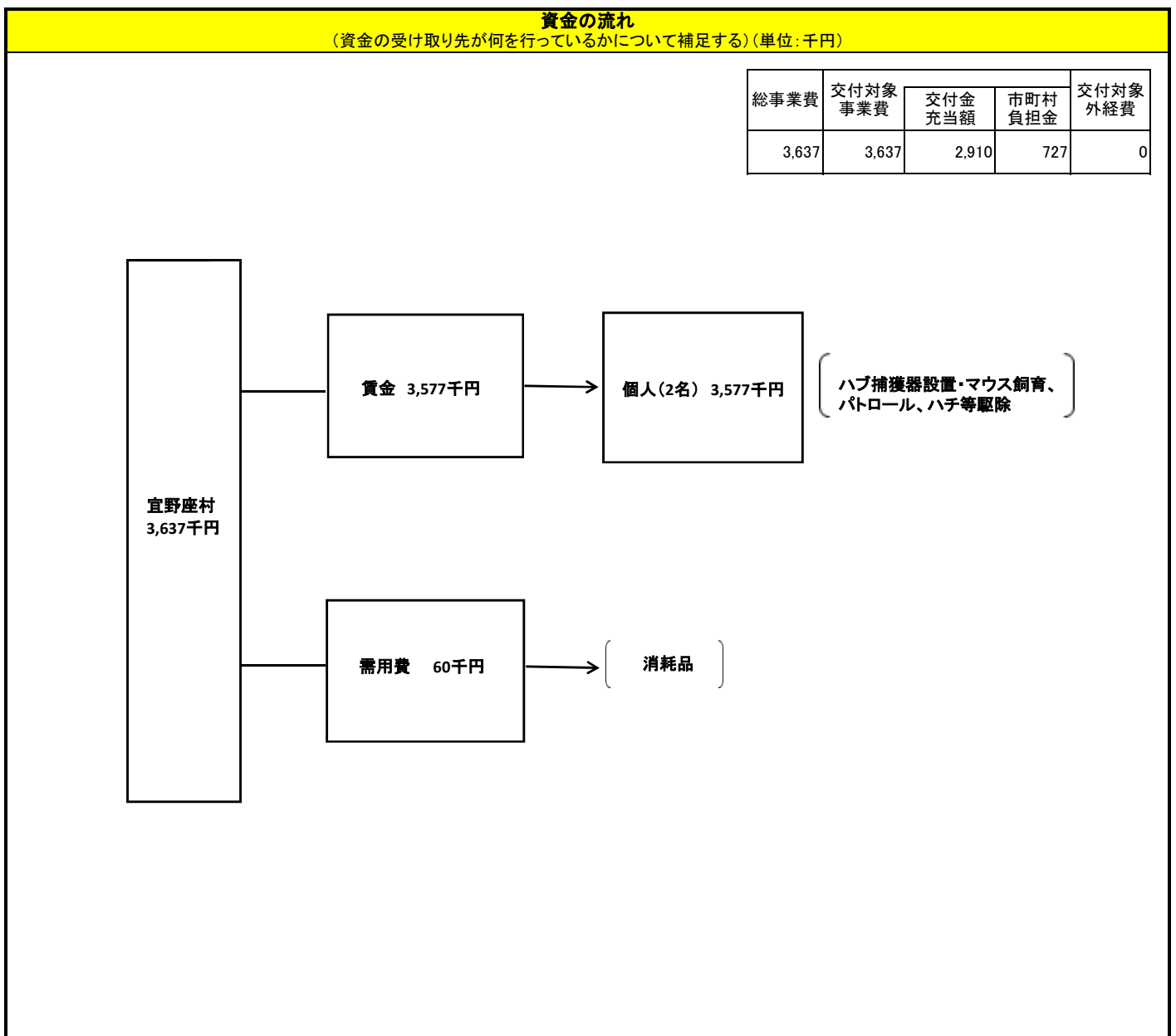
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>風光明媚な自然環境を生かした着地型観光を推進する本村は、これまで自然景観を損ねる不法投棄物が多かったが、本事業の実施により、不法投棄が減少している。令和元年度は、監視カメラが届かない場所への不法投棄対策として、監視カメラの設置場所の見直しや、ダミーカメラ、注意喚起の看板の設置を行った。</p>	<p>必要に応じてパトロール場所や監視カメラ、警戒中看板等の設置場所を見直し、不法投棄の抑制を図る。また、村民ヘチランなどで不法投棄の防止啓蒙チラシなどを配布し、村全体の不法投棄に対する意識啓発をおこなう。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後も定期的な不法投棄パトロール、ダミーカメラの設置や監視カメラの移動など、効率的に不法投棄を監視・抑制し、不法投棄の減少を図り、着地型観光の推進につなげる。また、村委嘱の環境監視員だけでなく、その他地域住民の協力を得て、村民みんなで不法投棄防止及び抑止できるよう呼び掛けていく。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・監視・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料・賃金(備人料)基準表により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・用途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	危険生物駆除捕獲事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ	
担当部課名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全	
事業内容	観光客や修学旅行生等の安全を確保することを目的とし、咬傷事故等を未然に防ぐため、捕獲器の設置や観光地のパトロールを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	5,638	3,730	3,750	3,750	3,749
	(b) 予算現額	5,638	3,258	3,570	3,750	3,637	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 472	▲ 180	0	▲ 112	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	5,638	3,258	3,570	3,750	3,637	
	B. 執行済額	5,638	3,258	3,570	3,707	3,637	
	うち交付金充当額	4,510	2,606	2,855	2,965	2,910	
	次年度繰越額	—	—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%	
予算の状況の説明	ハブ捕獲機のメンテナンスが予定より少なかったため事業費112千円を減額したが、当初予定した事業内容を計画通り実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	観光地パトロールの実施	目標	(12回/月)	(12回/月)	(12回/月)	(実施)	
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	実施	
	ハブ捕獲器設置	目標	(50箇所)	(50箇所)	(50箇所)	(設置)	
実績		173箇所	85箇所	200箇所	128箇所設置		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地パトロールを1年間、月12回実施した。 ・村境界付近128箇所にハブ捕獲器を設置し、捕獲・駆除を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		観光地におけるハブの咬傷被害件数:0件	目標	()	(0件)	(0件)	(0件)
		実績		0件	0件	1件	
	【参考指標】 観光地におけるハブ・ハチの苦情件数:0件	目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実績		0件	0件	0件	
進捗状況説明	観光地付近において地元住民1件の咬傷被害があり、目標は未達成となった。なお、観光地におけるハブ・ハチ等への苦情は0件であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>捕獲については、目撃情報を基に設置場所を移動したことにより、ハブ2匹、ヒメハブ3匹、アカマタ4匹、台湾ハブ1匹が捕獲された。</p> <p>捕獲場所においては、住宅地域、郊外関係なく捕獲されているが、重点的に対策しているエリア外での目撃や咬傷被害、捕獲情報が多々あるため、エリアを拡大して、観光地へのハブ等の危険生物が侵入するのを防ぐ必要がある。</p>	<p>公共工事や地域清掃などにより区画の整備が行われるとハブ等の目撃情報があるため、適宜パトロールや捕獲器設置エリアを見直し、効果的に捕獲・駆除ができるよう取り組む。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後も目撃情報を元にパトロールや捕獲器設置エリアを適宜見直し、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、個体の減少・拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。</p>		



資金の 用途の流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料・賃金(備人料)基準表により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

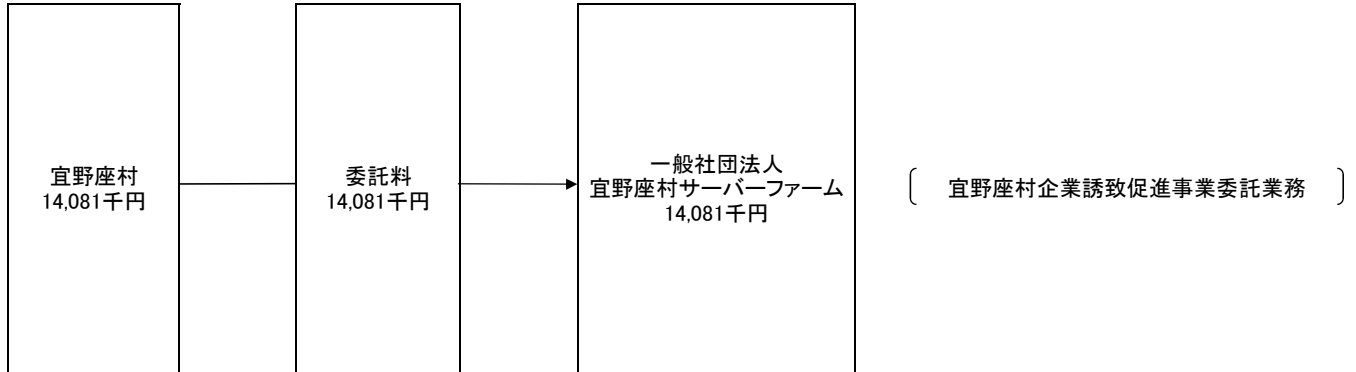
市町村名		宜野座村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア	
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	情報通信関連産業の立地促進	
事業内容	企業の誘致を図るため、県外ITイベントにおけるブースの出展や情報系企業の招聘セミナー等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	7,979	17,462	14,160	14,081	
	(b) 予算現額	7,979	17,457	14,160	14,081		
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5	0	0		
	(d) 繰越額	0	0	0	0		
	A. 計(b+d)	7,979	17,457	14,160	14,081		
	B. 執行済額	7,972	17,457	14,160	14,081		
	うち交付金充当額	6,377	13,965	11,328	11,264		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	不用はなく、事業計画通りに執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	招聘ツアーの実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	企業誘致ブース出展	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・関東・中京・関西・九州のIT関係の企業を対象として、9月に本村への招聘ツアーを実施した結果、20社から32名を本村へ招聘することが出来た。 ・10月の日経XTECH EXPO2019において、企業誘致ブースを出展し、呼び込み係や説明員を配置するなどの取り組みを行った結果、名刺獲得枚数において昨年対比116%を達成することが出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	企業招聘ツアーの参加者	目標	()	(20人)	(20人)	(20人)	()
		実績		25人	20人	32人	
	企業誘致ブース来場者	目標	()	(200名)	(200名)	(200名)	()
		実績		164名	200名	200名	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・企業招聘ツアーにおいては、昨年度の関東・中京・関西に加えて九州からも初の参加者を獲得出来たことから、目標値を大幅に上回る結果となった。 ・企業誘致ブースの来場者は前年度と同数となり、目標を達成することができた。 						

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致ブース来場者数、企業招聘ツアーの参加者数ともに目標を達成することができたのは、これまで積み重ねてきた広報活動が効果的に働いたことが要因であり、その波及効果でR1年度は2社の新規企業の進出があった。 ・本村は北部地域にあたり中南部に比べて就労人口が少ないため、人材確保や立地条件（通勤の利便性や都市部へのアクセス等）の懸念事項を解消する取り組みが必要である。 ・近年、進出企業の高度化や業態変化に伴い、スモールオフィスや多様な働き方に対応した施設環境が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村への進出企業獲得へ向けて、更なる広報普及活動を実施していく。 ・WEB面接システムの導入により入居企業のスムーズな人材確保に繋げるほか、本村の立地条件を強みにした戦略的な企業誘致について検討する。 ・入居先の施設では、現在、段階的にスモールオフィスに対応した環境整備を行っているところであり、効果的にPRに活用していく必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致ブースへのイベント出展回数を1回から2回へ増やすほか、本事業による接触企業に対するフォローアップ営業を強化する。 ・WEB面接システムを導入することで県内外の優秀な人材確保を図るとともに、通勤の利便性や都市部へのアクセスについては本村の立地条件（本島内各地へのアクセス性は平均的に良い条件となっていること、公共交通による通勤は利便性が低いものの、交通量が少なく、渋滞によるストレスが少なく、比較的安全に通勤できること等）の強みを活かしつつ、働き方改革やコロナ禍によるテレワーク推進の状況も踏まえた戦略的な企業誘致に取り組む。 ・入居先の施設について、別事業で空調設備工事や入居スペースの間仕切工事を実施し、工事完了後は施設設備の安全性や利便性向上について広くPRに活用する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,081	14,081	11,264	2,817	0



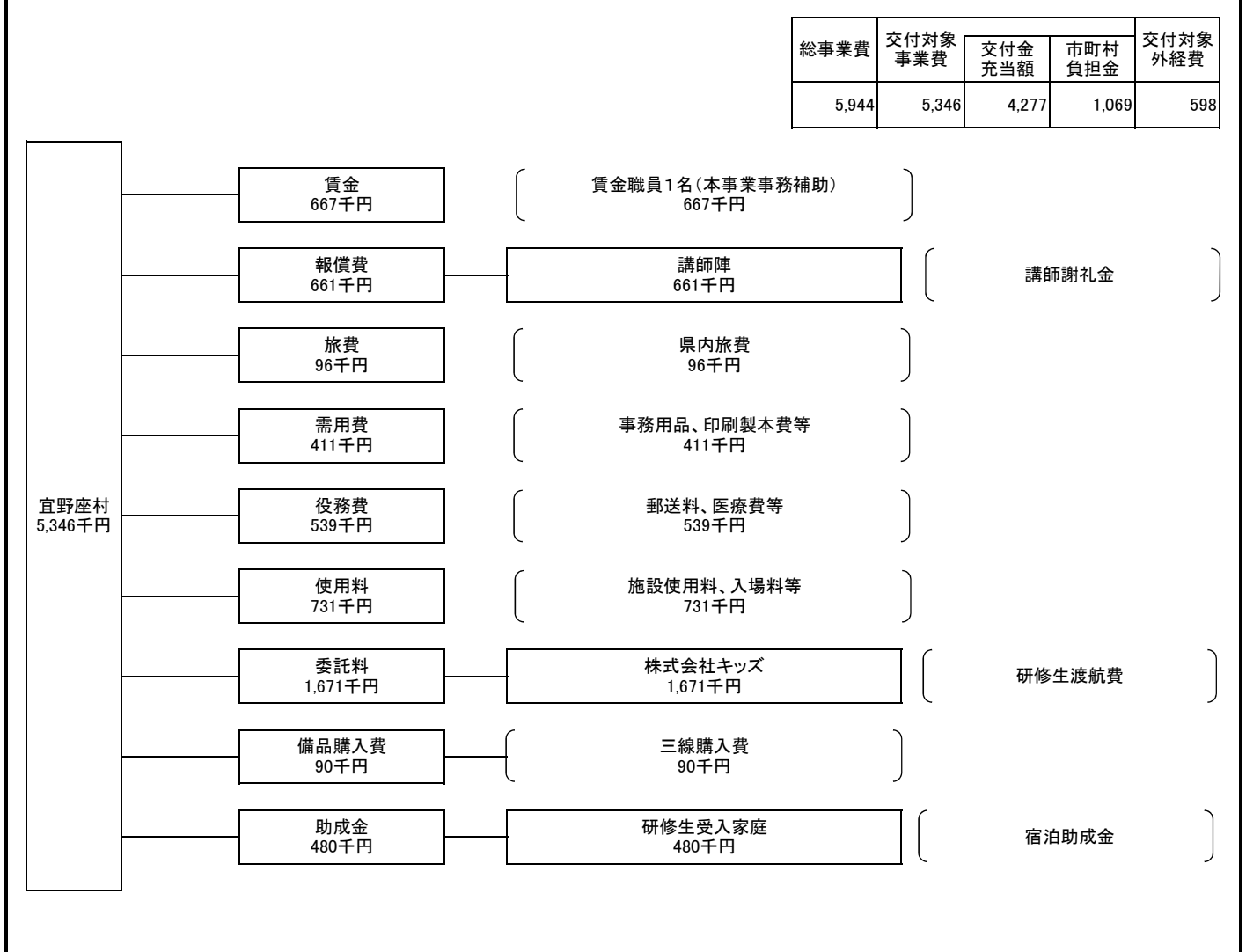
資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ・予算規模については、人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であると考え。 ・用途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア		
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成29~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7		
事業内容	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、宜野座村出身の海外移住者子弟を受け入れ、研修及び、村民との交流を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(b) 予算現額	5,997	5,998	6,548		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	5,997	5,998	6,548		
	B. 執行済額		4,758	5,197	5,346		
	うち交付金充当額		3,806	4,157	4,277		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		79.3%	86.6%	81.6%		
	予算の状況の説明		概ね事業計画通り予算を執行することができた。不用額は、委託料の契約額との差額や講義回数減による講師謝礼金の減などによるものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	宜野座村出身者海外移住者子弟4名を招聘し、3ヵ月間の研修を実施する。(受入相手)・ペルー、アルゼンチン、ブラジル、ハワイ州		目標 (3ヵ月)	(3ヵ月)	(4名招聘 3ヵ月研修)	()	
			実績 4人(8月~10月)	4人(8月~10月)	4名招聘 3ヵ月研修		
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	宜野座村出身の海外移住者子弟をペルー、アルゼンチン、ブラジル、アメリカ・ハワイ州からそれぞれ1名受け入れ、村内を中心に3ヵ月間の研修を実施した。日本語講座(8月)、文化講座、琉舞研修(9~10月)を実施したほか、村内保育所(園)をはじめ、村立小・中学校、青年会、地域のお年寄りとの交流を行ったことで、幅広い年齢層との親睦を深め、人的ネットワークの構築に努めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	受入れた研修生が沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)を含めアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標 ()	()	(80%)	(80%)	()
			実績		100%	100%	
	【参考指標】研修報告書の作成		目標 ()	(100%)	(100%)	(100%)	()
			実績		100%	100%	100%
進捗状況説明	受入れた研修生へアンケートを行ったところ、全員から、沖縄の文化や歴史などにより興味をもつようになったとの回答があり、目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・琉舞講座の実施や文化講座の講座回数を増やしたことで、沖縄の文化や歴史・伝統に触れる機会が増えたことが、沖縄への関心度向上に繋がったと考える。研修生へのアンケートでは、沖縄の文化であるウチナーグチをもっと教えてほしいとの要望もあった。 ・宜野座村での研修後、各国村人会や県人会で活動する人が増えており、宜野座村との情報交換の橋渡し役になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は文化研修の中で、方言講座の回数増を検討し、ウチナーグチを学ぶ機会を増やしていく。 ・自国に戻るとどうしても日本語の活用機会が少なくなってしまうため、SNS等を活用し連絡を取ることで日本語に触れる機会を作るとともに各国村人会との情報交換を行っていく。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・方言講座の回数増やしてウチナーグチを学ぶ機会を増やすとともに、より沖縄の文化や歴史・伝統を学ぶことができるよう、研修内容の充実を図る。 ・派遣事業と連携し過去の研修生に案内役をお願いすることとで交流を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、複数旅行会社との見積比較を実施した結果による最安料金の旅行会社と随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○講師謝礼金の減などの理由により不用が生じたが、事業計画通りに執行しており、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である研修生の私的な費用については、本人負担としており、妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については、目的に即し、必要なものだ判断した。